

後期終業式校長講話

皆さん おはようございます。

2年生の皆さんとは昨年4月の前期始業式で、1年生の皆さんとは入学式の際にこの体育館でお会いして、それからあっという間に1年が経ってしまいました。この1年間、皆さんはどのような高校生活を送ったのでしょうか。この後、LHRで担任の先生からお話と一緒に成績通知表が手渡されると思います。是非とも一度立ち止まって、自身の1年間を振り返ってみてください。そして、その反省や意気込みを来月からの新学期に生かすようにしてください。

1年生の皆さんは前期始業式には出ていなかったのですが、その時に私が話した内容を簡単に振り返ってみます。現在、NHK大河ドラマは「西郷どん」を放映していますが、去年は柴咲コウ主演の「女城主直虎」でした。ちょうど去年の今頃は、直虎の子役が病弱な亀之丞に対して、「われは亀の竜宮小僧になる」という声をかけていたことが話題になっていました。

(以下、昨年の前期始業式校長講話より抜粋)

NHKの「女城主直虎」のホームページには、竜宮小僧伝説として以下の紹介文が掲載されています。

「人が困っていることを、知らぬ間に手伝ってくれる謎の存在。知らぬ間に田に苗を植えておいてくれたり、洗濯物を取り込んでおいてくれたりする」と紹介しています。これは静岡県浜松市や浜名湖周辺で語り継がれている伝説がもとになっています。(以上、NHKホームページより転載)

すなわち、誰か困っている人がいたならば、その人をそっと助けてくれ、そしてそっと姿を消すのが竜宮小僧なのです。

さて、皆さんの周りには困っている人、助けを求めている人、悲しんでいる人、苦しんでいる人はいませんか。勉強のこと、部活動のこと、進路関係のこと、友人関係のこと、高校年代はいろいろな場面で悩みや苦しみを感じることが多いと思います。そんな人がいたらそっとさりげなく手を差し伸べて助けてあげる。そんな竜宮小僧に皆さんがなってくれば嬉しいですね。

自分が竜宮小僧になって誰かを助けられれば、いつか自分の困った時には竜宮小僧に助けてもらえるかもしれない。そんな心遣いのできる集団であってほしいと心から思います。

いかがでしたか？そんな竜宮小僧になれたでしょうか。あるいは自分自身が竜宮小僧に助けてもらった人もいたのではないのでしょうか。この1年で竜宮小僧になれなかった人は、来年度こそ竜宮小僧になってください。

さて、我が国の過去最高のメダル数となった平昌五輪、時差がないので皆さんも一生懸命テレビ観戦したのではないのでしょうか。1月の全校集会ではスーパーアスリートの言葉を紹介しましたが、今度のオリンピックでも、表彰台に乗った選手、あるいはそうではない選手も含めて、一線を越えた人たちの言葉には重みがありましたよね。

その中で私が最も感動したのは小平選手でした。長野県茅野市出身、伊那西高校、

信州大学を経て、現在松本市の相沢病院所属の生粋の信州人である小平選手ですが、オリンピック前のワールドカップ 500m では 15 連勝中で、普通に滑れば優勝は間違いない状況ではありました。でも、それ故にプレッシャーは我々の想像以上にかかったと思われます。「勝って当然」という目に見えないプレッシャー…。その中で戦ってオリンピックレコードを更新し、残り一組を残してほぼ金メダルは確定かと思われたわけですから、派手なガッツポーズで日本から訪れた応援団とともに喜びを分かち合うのが普通だと思われます。

違いましたよね。小平選手、大歓声の観客席に向かって「し〜っ」のポーズをしました。「まだこの後に滑る一組ふたりがいるのだから静かにしましょうね」とでも言わんばかりでした。

その何日か前、20 年前の長野五輪男子 500m で優勝した清水宏保選手が、小平選手のオリンピックでの課題を説明していました。彼が言うには、「小平選手は周りに気を遣いすぎで優しすぎる。だからもっと自分が自分がと我がままになれば優勝できる」と。しかし、その気遣いと優しさを持ったままで、小平選手は優勝しました。

私はこの姿を見て、新渡戸稲造の「武士道」を思い出しました。武士道というと、お侍が主君のために切腹したり、「家」のために自身の希望を捨て我慢をしたり、そういうことを奨励するかの如く理解されがちですが、明治時代にアメリカに渡りかの地の文化の影響を受けた新渡戸の武士道は、そのような封建的な考え方とは全く別物でした。

新渡戸は「武士道」とは、「義」「勇」「仁」「礼」「誠」「名誉」「忠義」とであると述べました。時間の都合もあり全てを説明することはできませんが、その中の「礼」について説明します。新渡戸は、礼とは相手を思いやる心が外へ表れたもの、言い換えれば他者の気持ちを尊重することから生まれる謙虚さそのものだと説明しました。

ソチオリンピックで悔しい思いをし、その悔しい思いを糧に大変な努力をした結果、それが実った。間違いなく飛び上がりたいくらいに小平選手は喜びたかったはずですが、しかし、それを押し隠して次の組のための配慮をしたのです。この瞬間、小平選手こそ武士道でいうところの「礼」の具現者だと私は確信しました。

小平選手、滑り終わった後も、表彰台に上った時も、テレビのインタビューを受けていた時も素敵でした。それは彼女自身から武士道のいうところの「礼」が溢れていたからでしょうね。そんな素敵な人に皆さんもなってほしいと願いつつ、後期終業式の講話にいたします。